

川の再生とは

- 川のポテンシャルを生かし魅力を高めることで
- ◆県民のみなさんが川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国埼玉」を実現することです。
- 川が地域の共有資産として利活用されることで
- ◆地域のみなさんが持続的・自立的に川をきれいに守り続ける活動を行う姿を目指しています。

埼玉が持つ川のポテンシャル

- ◆県土面積に占める河川面積の割合
3.9% **日本一**
- ◆荒川（鴻巣市～吉見町間）の川幅
2,537m **日本一**

知ってたかな？



埼玉県のマスコット コバトン

平成20～23年度
水辺再生
100プラン

平成19年度
川の再生基本方針策定

平成24～27年度
川のまるごと
再生プロジェクト

◆安らぎとにぎわいの空間創出

・自然や親水機能の保全・創出 ・水辺の魅力・発信

◆清流の復活

・水環境の改善（水質・水量） ・川の浄化ムーブメント

平成25年度～
水辺空間とことん
活用プロジェクト
も展開中！

平成28～32年度
川の国埼玉はつら
つプロジェクト

「川の国埼玉」
の実現へ

水辺再生100プラン（平成20～23年度）

水辺再生100プランとは

- ◆「川の再生」のリーディング事業として集中整備
- ◆4年間で100箇所（河川70、農業用水30）の水辺再生モデル5箇所 芝川、藤右衛門川、
- ◆計画づくりから地域の方々が参加

具体例

- 芝川（川口市）
- ◆再生テーマは、「にぎわい・安らぎ」、「清流の復活」
- ◆地域住民アンケート調査
水質がよいと思う人の割合
5%（平成20年度）が約4倍の**18%**（平成22年度）に増加

整備前



整備後



水質の評価「よい」
5%⇒18%
約4倍に増加

これまでの8年間の成果

「川の再生ムーブメントが拡大」

- ◆川の美化活動に取り組む
「川の国応援団」

①団体数

49団体（平成19年3月）



393団体（平成29年3月）
★約8倍

②活動延長

114km（平成19年3月）



563km（平成29年3月）
★東京から京都を上回る距離

- ◆みどりと川を再生し
自然と共存する取組の現状満足度
（県政サポーターアンケート）

5年連続第1位
（平成24～28年度）

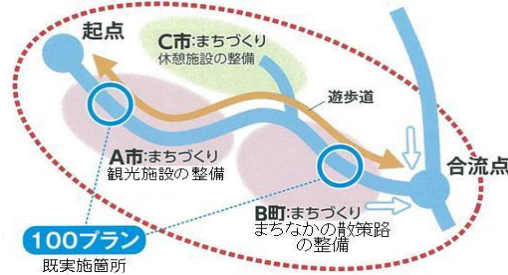
川のまるごと再生プロジェクト（平成24～27年度）

川のまるごと再生プロジェクトとは

- ◆一つの市町村、若しくは複数の市町村に流れる川をまるごと」対象にした取組
- ◆川や地域の特徴を生かしながら市町村のまちづくりと一体となって川の再生を線的、面的に広げる取組



プロジェクトのイメージ



県の取組例

親水護岸整備、遊歩道整備
河原の再生 など

市町村の取組例

公園など拠点施設の整備
観光施設の整備
まちなかの散策路の整備
案内看板の設置
下水道の整備
合併処理浄化槽への転換 など

地域のみなさんの取組例

維持管理活動（美化活動）など

水辺空間とことん活用プロジェクト（平成25年度～）

とことん活用プロジェクトとは

- ◆国の規制緩和により民間事業者が河川敷地を利用できるようになった。
- ◆自然豊かな水辺空間や「水辺再生100プラン」「川のまるごと再生プロジェクト」で整備される水辺をとことん活用。
- ◆民間のノウハウや活力を導入し、水辺に新たな魅力を作り出し、地域外からの入込み客により地域の活性化を図る。

水辺空間の活用

水辺空間とことん活用第1弾。平成25年7月20日（土）、河川敷地で民間事業者等が運営するバーベキュー場が県内2箇所にオープン。

①ときがわ町 川の広場（都幾川）



バーベキュー場

②飯能市 弁天河原河川広場（入間川）



利用方法

オープンカフェ、イベント広場、バーベキュー場、キャンプ場、移動販売、船着場など



水辺空間とことん活用第2弾。平成26年7月19日（土）、イベント広場等がオープン。

③大落古利根川河川広場（大落古利根川）



イベント広場

④寄居町かわせみ河原（荒川）



バーベキュー場